

山口県立下関北高等学校  
令和3年度第2回学校運営協議会 会議録

1 日 時 令和3年11月17日(水) 午後5時30分から午後7時20分まで

2 場 所 山口県立下関北高等学校 会議室

3 参加者 18名  
学校運営協議会委員 11名(校長を除く)  
学校関係者 7名(校長、教頭、事務長、教諭4名)

#### 4 内 容

##### (1) 開会

###### ・校長挨拶

第1回の協議会会議では、今年度の学校運営方針、学校評価書、地域と連携・協働した取組などについて御説明し、御承認をいただくとともに、人づくり・地域づくりの取組や小中高連携の取組について御協議いただきました。

その中でいただいた御意見をもとに、生徒がしたいと思っていること、考えていることに耳を傾け、また、地域の方がどのようにお考えなのかを確認しながら、コロナ禍においても可能なことに取り組んでいるところである。

こうした中、角島灯台が国の重要文化財に指定され12月に1周年を迎えるのを記念して、10月31日、11月1日に下関市役所豊北総合支所や地元の花弁栽培農家の司ガーデンと連携し、角島灯台公園周辺において、ハロウィンかぼちゃのランタン展示やライトアップなどを実施した。

また、豊北中学校でも進められていた、女子のスラックスの着用について、本校においても10月に従来のスカートに加えてスラックスの着用を認めることとしている。玄関に展示しているので帰りに見ていただきたい。

また、小中高の連携の熟議については1月6日に予定している。御協力をお願いしたい。

なお、修学旅行については、コロナ禍の中、行き先を新潟・東京から熊本・長崎等の九州北部地区へ変更した。

ただ、7月に発表された来年度の本校の入学定員が80名となり、2クラス体制になることが決まっている。ますます地域の皆様の力が必要となってくると考えている。

本日は今年度前期の取組や学校評価の中間期評価について、御報告するとともに、それをもとに、「豊かな人間性と社会貢献への意欲・態度を育てる教育の推進」について意見交換をお願いしたい。限られた時間ではあるが、それぞれの立場から、忌憚のない御意見をいただきたい。

##### (2) 本日の予定及び資料確認

#### 2 報告・協議

##### (1) 令和3年度の取組について

- ・今年度の地域と連携・協働した活動について  
校長が資料により説明
- ・ハロかぼプロジェクトについて

JRC部代表生徒2人が資料及びパワーポイントにより説明

(2) 令和3年度学校評価の中間評価について

各課長、事務長、教頭が資料により説明

(3) 「やまぐちCS プロモーション」について

教頭が資料により説明

(4) 協議「豊かな人間性と社会貢献への意欲・態度を育てる教育の推進」に向けて

・ 協議について、論点を校長から説明

「2030年の社会と子どもたちの未来について」

- 社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきており、しかもそうした変化が、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全ての子どもたちの生き方に影響するものとなっている。社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれば、難しい時代になると考えられるかもしれない。
- しかし、このような時代だからこそ、子どもたちは、変化を前向きに受け止め、私たちの社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしたり、現在では思いもつかない新しい未来の姿を構想し実現したりしていくことができる。
- また、各大学が実施する試験においては、ペーパーテストだけでなく、高校3年間でどのようなことに取り組み、その経験からどのような資質・能力を身につけたかを、多様な方法で多面的に評価する試験へと変わっていく方向である。
- こうしたことから、本校の教育課程の特色を生かしながら、大学入試改革や学習指導要領の趣旨を踏まえた、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善、社会に開かれた教育課程の実現に一層取り組む必要があると考えている。
- 本校は、地域連携を進める中で、地域の方、小学校、中学校との連携は強固なものになっていると感じている。
- だからこそ学校運営協議会の皆さんが、最近の社会人を見た時、これからの社会を作っていく子どもたちが高校段階までにどのような資質・能力を身につけさせておく必要があるかなどについて、御意見をいただきたい。

#### 【委員からの主な意見】

- コロナは別として、ネットゲームに子どもが夢中になっている。人と触れ合う機会を避けて、自分の世界で生きるのが心配である。人と人との会話、親子、お年寄り、地域の人との触れ合いが大切である。学校には今の状況を続けてほしい。
- いろいろなことをされている。地域のアジサイ園の方も、北高生が来ると喜んでいて。司ガーデンさんには生徒がいい経験をさせてもらっているし、地元の人も喜んでいて。豊北町には、結構移住されてきている方がいる。東京から来た画家や料理人もいる。こういう人と生徒が話す機会があればよいと思う。講演会などよりも1対1で話す機会があればよい。
- コロナであっても、北高の活動は内容が充実している。いい方向かと思うが、市外と市内の交流ができていないところもある。コロナが収束すればもっとできると思う。自分が高校生のときには、県外、市外との交流が多くできた。少しでもそういうことができればよい。来年はもう少し幅を広げられればよい。
- 設定された活動の中で地域と触れ合うことはできていると思うが、生徒個人の判断ではできていない。先日、しかけ絵本展のチラシを役員が生徒を対象に配ろうとしたが、ポケットに両手

を入れて全然受け取らない生徒や何も言わずに歩いていくのが何人かいる。生徒にも高校生向けのイベントか何かと予想はつくと思うが、来る生徒が非常に少ない。今の高校生は道草を食うことがない。スマホを見ながら帰る生徒もいる。「品行方正」というが、自主判断で社会に溶け込むということができていない。

- 私も同じようなことを感じている。自分の考えをもって行動することが大切である。豊かな人間性、社会貢献というと、挨拶が挙げられるが、高校生となると難しい。挨拶をよくしてくれる者もいる。声掛けをするというの、小学生やお年寄りに関わることも必要。場面をいろいろ体験させていくことが重要だろう。地域を盛り上げてくれる場面が多くあるので、今後もつながりをつくってほしい。
- 地域との連携はよくされているので、一つひとつの質を高めることが必要である。リアルな人間性の育成については、小・中・高と積み上がっていている。ICTなどもオール豊北で、豊かで正しい学びを支援するか考えていくことが必要である。リアルなコミュニケーションの場を設定しているが、コロナ禍であることから、対面して人の細かな表情を見ながらというのをスムーズにはできていない。
- アナログというか、実際の関わりが大事である。小・中・高の取組がそろっているのがよい。挨拶については、小学校では大人が先に、子どもたちは受け身だった。そこで「校長が先に挨拶をするのはおかしいよね。君たちからするのがよい。」と子どもたちに話をしたら、子どもたちから先に挨拶をしてくれるようになった。社会貢献については、小学校が一次産業（材料づくり）、中学校が加工（ものづくり）、高校がネット販売（付加価値をつける）というような流れで連携してやってみたらどうかと考えている。
- 地域の方が協力的で、バックアップもすごい。自分が地域に関わっていくという経験を積ませてほしい。豊かな人間性については、小中学校の子どもが挨拶をするのに、大人の方が挨拶を返さないことが多い。地域の中で挨拶ができるようになればよいと思っている。
- 高校生の子にはネットワークがある。学校の中、他校ともある。小・中からの積み重ねである。そんなに心配はしていない。「ハロカぼ」のように「ええとこ取り」ではなく、部活動において外部の方を講師として入れたらどうだろうか。今やっていることから一工夫して、いろんな方と触れ合う機会を大人が作ってあげることが大切である。
- 「人格は嵐の中で育つ。知性は静寂の中で育つ。」これはゲーテの言葉である。心を揺さぶらないといけない。もっと深く人と関わるのが大事である。横の連携はあるが、縦の連携は少ない。そういう中で、ああいう高校生・中学生になりたいというモデルを育てるとよい。体験されていることはよい。「自分らしく生きようね」とよく言うが、庭石は3分の1が表に出ているが、3分の2は埋まっている。この埋まっている部分に気付かせることが大事である。
- いい意見が出た。言いつ放しになるのはよくないので、学校の方でよく整理をして、次回以降、一つずつテーマとして取り上げて、つなげていければよい。行動に移せるよう、よろしくお願ひしたい。

#### (5) その他

### 3 閉会

- 次回の学校運営協議会についての連絡等